

2006年度

第1四半期決算概要

常務取締役 執行役員経営管理第1本部長
平井 茂雄

<http://www.eneos.co.jp>

2006年7月31日



新日本石油
Your Choice of Energy

06年度第1四半期決算のポイント

経常利益は、552億円と前年同期比△174億円減益

〔在庫影響除き経常利益は、283億円と前年同期比+47億円増益〕

- ◆ 在庫影響のプラスが大幅に減少
- ◆ 自家使用燃料代のアップ等により、石油マージンが悪化
- ◆ 生産数量増、原油価格の上昇等により石油・天然ガス開発部門が増益
- ◆ 受取配当金の増加等により営業外損益が良化

06年度第1四半期 損益概要

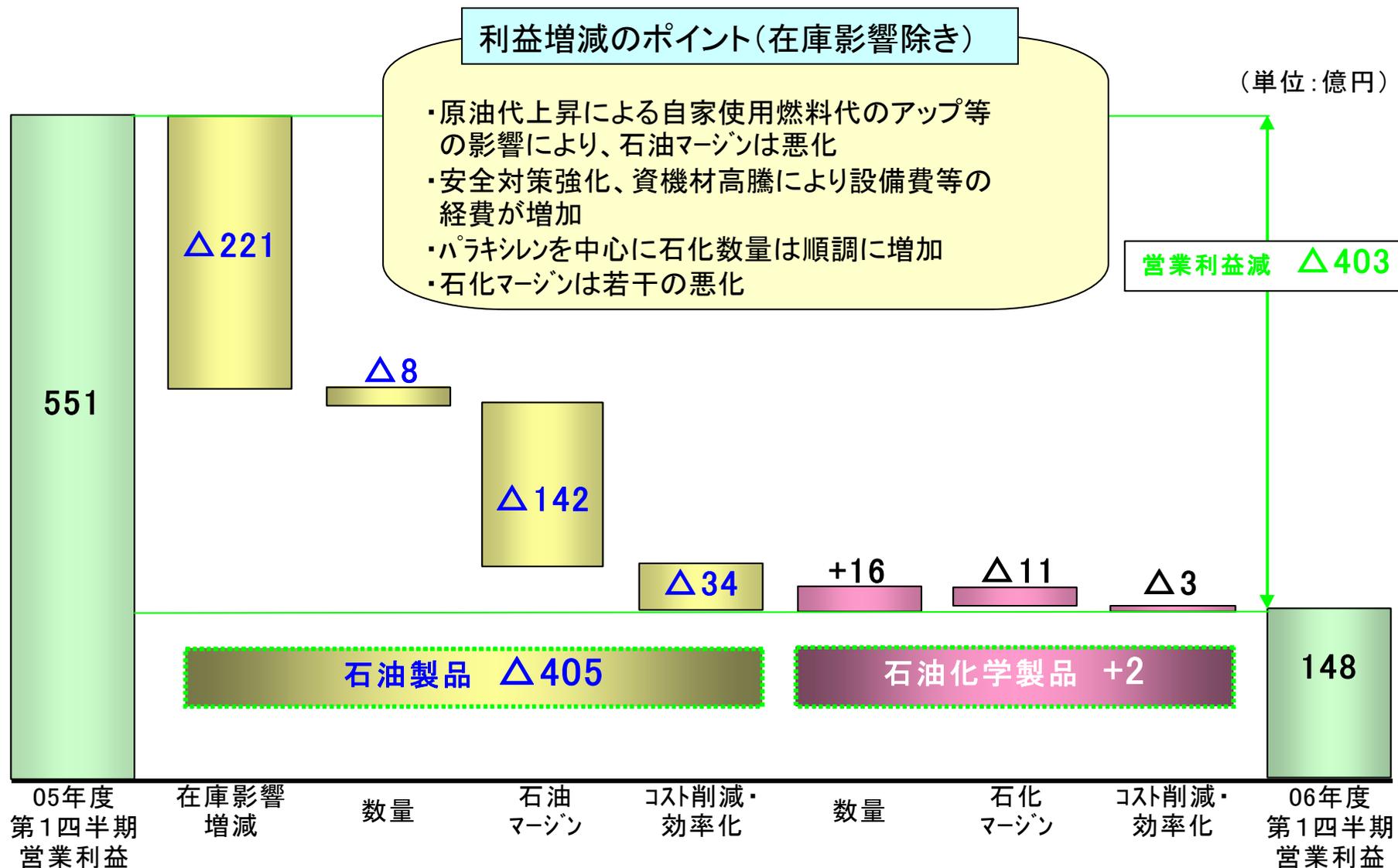
	05年度 第1四半期	06年度 第1四半期	増 減
原油価格 (\$ / Bbl)	48.1	63.7	+ 15.6
為替レート (円 / \$)	106.7	115.2	+ 8.5
ポイント等除き 販売数量 (万 KL)	1,617	1,665	+ 48
	兆 億円	兆 億円	億円
売上高	12,378	15,069	+ 2,691
営業利益 (在庫影響)	703	434	△ 269
(在庫影響除き)	(490)	(269)	(△ 221)
	(213)	(165)	(△ 48)
営業外損益	23	118	+ 95
経常利益 (在庫影響除き)	726	552	<u>△ 174</u>
	(236)	(283)	(+ 47)
特別損益	14	19	+ 5
当期利益	399	287	△ 112

06年度第1四半期セグメント別営業利益の増減(前年同期比)

前期比△269億円 05年度1Q 06年度1Q
 (703億円 → 434億円)

I. 石油精製・販売	△403 億円	(551億円→148億円)
1. 石油製品	△405 億円	(443億円→ 38億円)
2. 石油化学製品	+2 億円	(108億円→110億円)
II. 石油・天然ガス開発	+132 億円	(156億円→288億円)
III. 建設・その他	+2 億円	(△4億円→△2億円)

石油精製・販売部門 営業利益増減分析

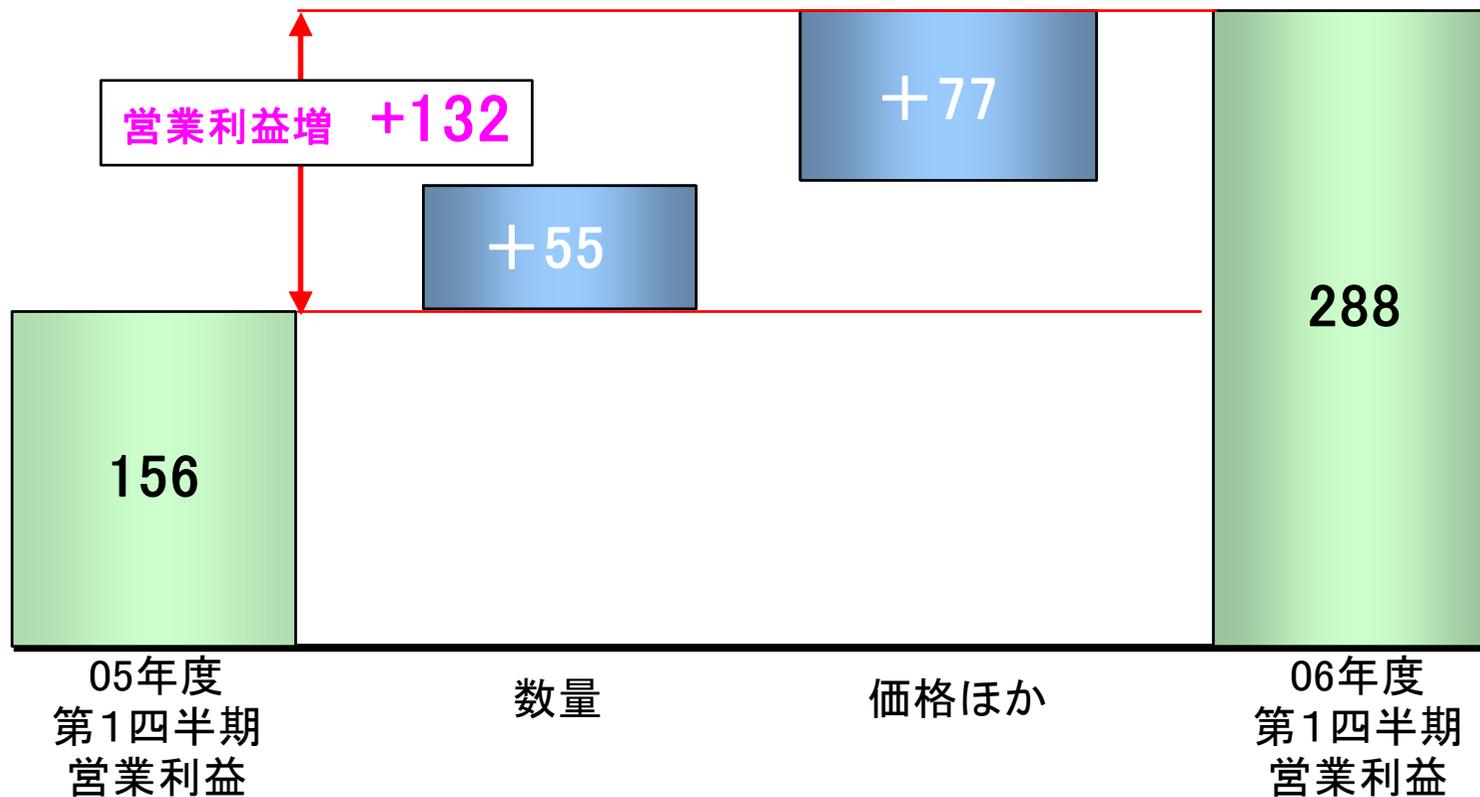


石油・天然ガス開発部門 営業利益増減分析

利益増減のポイント

- ・新規原油生産開始(オーストラリア ダンピア PJ)等により、販売数量が増加
- ・原油、ガス価格の上昇により販売価格が上昇

(単位:億円)



06年度決算見通し(4月公表を修正)のポイント

経常利益は、2,060億円と前回見通し(4月公表)比+690億円増益
〔在庫影響除き経常利益では1,620億円と前回見通し比△10億円減益〕

◆ 原油価格の前提を見直し

		\$/Bbl		前回(06/4)
• WTI	(06/7月以降)	70	←	60
• Dubai	(06/8月積み以降)	65	←	55
• 処理原油代(年度平均)		65.7	←	56.5
【参考】 為替レート		115	←	115

◆ 在庫影響が大幅に良化

◆ 自家使用燃料代のアップ、タイムラグの影響等により石油マージンが悪化

◆ 足元の好調な市況を反映し、石化マージンが良化

◆ 石油・天然ガス開発部門が増益

06年度損益概要(上期・年度 見通し)

(単位: 億円)

	上期 (見通し)	前回見通し比	年度 (見通し)	前回見通し比		
原油価格(\$ / Bbl)	65.5	(06/7-9) 67.3	+ 8.2	65.7	(06下期) 65.8	+ 9.2
為替レート(円 / \$)	114.9	(06/7-9)	△ 1.0	115.0	(06下期)	△ 0.4
ジョイント等除き 販売数量(万 KL)	3,320	114.6	+ 40	6,840	115.0	+ 40
売上高	兆 億円 2 9,700	+1,600	兆 億円 6 5,600	+4,300		
営業利益 (在庫影響)	890	+630	1,820	+670		
(在庫影響除き)	(490)	(+670)	(440)	(+700)		
	(400)	(△ 40)	(1,380)	(△ 30)		
営業外損益	150	△ 20	240	+20		
経常利益 (在庫影響除き)	1,040	+610	2,060	<u>+690</u>		
	(550)	(△ 60)	(1,620)	(△ 10)		
特別損益	△ 30	△ 20	△ 60	+30		
当期利益	510	+290	980	+280		

06年度セグメント別営業利益の増減(前回見通し比)

前回比+670億円

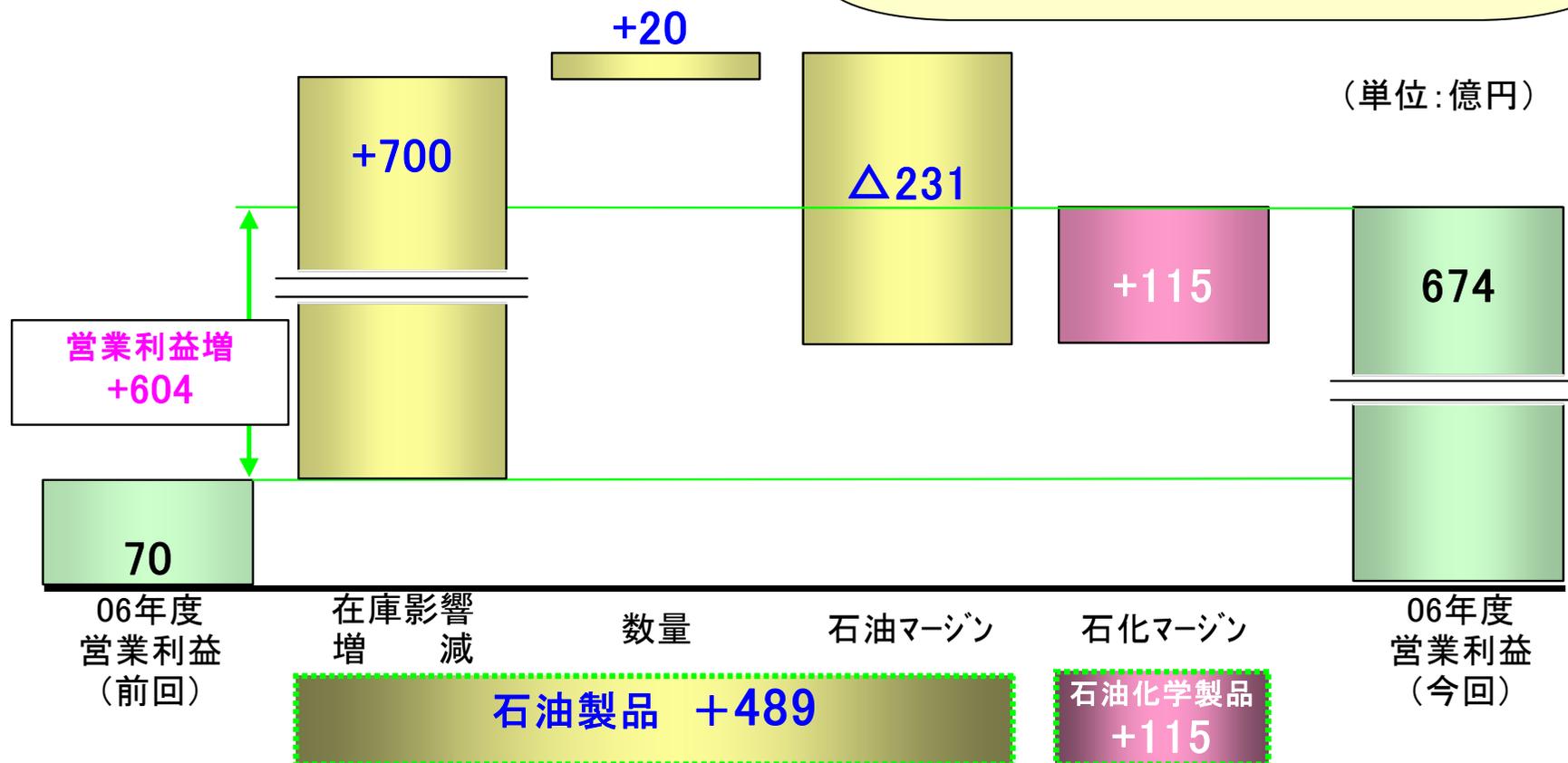
06年度(前回) 06年度(今回)
(1,150 → 1,820)

I. 石油精製・販売	+604 億円	(70億円→674億円)
1. 石油製品	+489 億円	(△285億円→204億円)
2. 石油化学製品	+115 億円	(355億円→470億円)
II. 石油・天然ガス開発	+72 億円	(940億円→1,012億円)
III. 建設・その他	△6 億円	(140億円→134億円)

石油精製・販売部門 営業利益増減分析

利益増減のポイント(在庫影響除き)

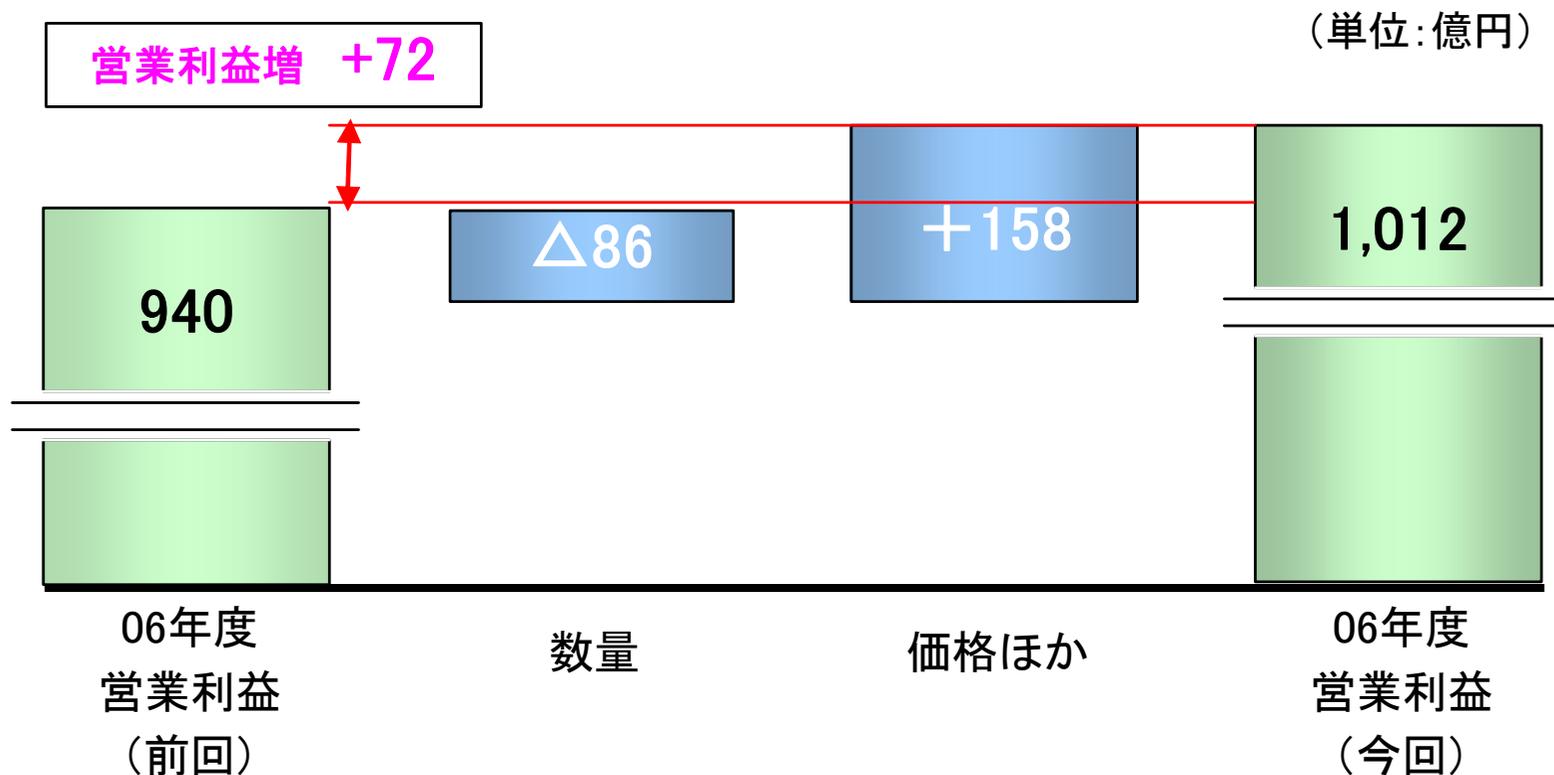
- ・原油代上昇による自家使用燃料代のアップ、タイムラグの影響等により、石油マージンは悪化
- ・パラキシレン、ベンゼン等の市況好調を反映し、石化マージンは良化



石油・天然ガス開発部門 営業利益増減分析

利益増減のポイント

- ・ハリケーン影響や個別プロジェクトの立ち上げ遅れ等により、販売数量が減少
- ・原油、ガス価格の上昇により販売価格が上昇



＜見通しに関する注意事項＞

本資料に記載されている当社の業績見通し、経営目標等のうち、歴史的事実でないものにつきましては、現時点で入手可能な情報に基づき、当社の経営陣が判断したものであります。

実際の業績等につきましては、さまざまな要素により、これらの業績見通し等と大きく異なる結果になりうることをご承知置き下さい。従いまして、業績見通し等に全面的に依拠して投資判断を下すことは、控えていただきますようお願いいたします。

なお、実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、原油価格、石油製品の需要動向および市況、為替レートならびに金利の動向が含まれますが、これらに限定されるものではありません。